

史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会
(第25期・第8回)
議事要旨

日 時：令和5年2月19日（日）10：00～12：00
場 所：オンライン（Zoomミーティングを利用）
出席者：石居人也、飯島渉、大友一雄、長志珠絵、倉員正江、久留島典子、芳賀満、柳原敏昭、若尾政希（以上、9名）

5. 議 題

(1) 前回議事要旨の確認
承認された。

(2) 日本学術会議資料の保存・管理と公開に関して
若尾委員長より、前回分科会以後、特任進展はないことが報告された。

(3) 被災史料の救済・保存をめぐって
若尾委員長より、第9回史料ネット全国集会（2023年1月28・29日、於：宮崎市）の参加報告があった。また、人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」主催の「地域歴史文化大学フォーラム」（3月18日）の開催について報告があった。

(4) 公文書管理、アーキビスト養成について
大友委員から前回分科会以降、特に進展がない旨の報告があった。

(5) 日本歴史学協会との共催シンポジウムについて
大友委員から、2023年6月24日開催予定の標記シンポジウムについて報告があり、本分科会として共催することが承認された。

(6) 提言案「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料・記録、記憶の保全と継承に向けて」（仮称）のブラッシュアップのために
DH（デジタルヒューマニティーズ）の専門家であり歴史研究者である橋本雄太氏（国立歴史民俗博物館准教授）と後藤真氏（同）を招聘した。橋本氏からは、市民参加型データベース作成の実例と課題について、後藤氏からはデジタルアーカイブにおける記録収集、社会的合意取得、記録保持等の主体について報告があり、その後、意見交換を行った。また、収集した記録に含まれる個人

情報の扱い、デジタルコンテンツと実物資料の扱い、保健所データの扱い等について意見交換し、学術会議第二部、第三部も含めた議論の必要性を確認した。

(7) その他
特になし